

# 公開講義

## 「ディケンズとドストエフスキー: 幻想としてのハッピーエンド」

### Dickens and Dostoevsky: Happy Ending as Illusion

#### 【講義要旨】

19世紀英国の作家ディケンズのクリスマスを舞台としたいいくつかの作品に着目してみよう。それらの作品には、この作家の創作スタイルを理解するための重要な鍵が秘められている。一見、不要に思われる細部に注意を向けてみることで、これらの物語には単一ではなく、いくつかの隠された主題があることが分かる。幸福な結末ではなく、ドストエフスキー的な、完結されない永遠の混沌があることが分かる。

また、これらの作品には映画のような特徴がある。ときには主題が背景にとどまり、背景が主導的な役割を担う。また、可塑的なイメージは言葉に替わり、メタファーは可視的なものになる。ディケンズのクリスマス物語のパラドックスは、おとぎ話のような外観から、ドストエフスキーの作品にも劣らず悲劇的で複雑で残酷な現実が現れてくる点にある。



#### 【講師紹介】 タチヤーナ・ボボリキナ (Tatiana Boborykina / Татьяна Боборькина) 先生



ロシア・サンクトペテルブルク国立大学助教授(文芸・演劇・映画講座)。オスカー・ワイルドの戯曲の研究で文学博士号取得。オックスフォード大学で学び、ハンガリーで教え、ニューヨークのバード大学でロシア文学講座を受け持つ。劇映画の考証・字幕多数。英国詩の翻訳、シェイクスピア、ワイルド、マーク・トウェイン、バーナード・ショー、ドストエフスキー、プロツキーその他の作品について論文多数。著書に『ディケンズのクリスマス物語の芸術世界』(1997、英語・ロシア語、上の写真)、『ボリス・エイフマン: 上昇』(2005、編著)、『言葉の異空間』(ロシア語版、英語版)等。

2017年10月12日(木) 16時30分—18時

京都大学文学研究科(文学部校舎) 2階 第5講義室

聴講無料・予約不要

使用言語: 英語

主催

京都大学文学研究科英語学英米文学専修 / スラブ語学スラブ文学専修

問い合わせ先: 075-753-2781(直通) nakamura.tadashi.6r@kyoto-u.ac.jp

